

## 富士山北麓でのノジコの繁殖環境

西教生

## The Breeding Environment of the Yellow Bunting at northern slope of Mt. Fuji

Norio NISHI

## 要 旨

富士山北麓において、ノジコの繁殖地の環境を明らかにすることを目的に調査を実施した。2012年5月下旬から6月中旬までに、28の地点で10分間の定点調査を2回おこない、ノジコの有無を記録した。調査の結果、10地点でノジコの生息が確認された。繁殖地の植生は、10地点の内4箇所はカラマツで、次いでカラマツにアカマツと落葉広葉樹が少し混じる、アカマツにカラマツが少し混じるがそれぞれ2箇所などであった。ノジコの生息が確認されたすべての地点にカラマツが生育していた。繁殖地の標高は1090～1470mであった。

キーワード：ノジコ、繁殖環境、富士山北麓

## はじめに

ノジコ *Emberiza sulphurata* は夏鳥として本州に渡来して繁殖するが分布は局地的で（五百沢ほか 2004）、日本以外からの繁殖の記録はない（小林 1959）。本州では北中部を中心に10都県でしか繁殖していない（日本鳥学会 2012）。2012年8月に改訂された環境省のレッドリストや山梨県のレッドデータブックでは、ノジコは絶滅危惧種になっている（山梨県森林環境部みどり自然課 2005、環境省 2012）。山梨県ではこれまでに9箇所（1箇所10km四方の区画）でのみ生息が確認されているだけで（日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会 2011）、どのような場所に分布するのかはよくわかっていない。峯岸（2007）は長野県軽井沢町の録音データを解析した結果から、調査開始当初は普通に記録されていたにもかかわらず、まったく記録されなくなった鳥類として9種を報告しているが、そこにはノジコも含まれている。山梨県内のノジコの生息状況については不明であるが、近県では減少が知られているため、現状を記録することは重要である。特に、絶滅危惧種の繁殖地の環境を明らかにする意義は大きい。

ノジコの生息地は低山帯の二次林、沢筋や入り組んだ湿っぽい湧水地といわれている（たとえば、中村・中村 1995）。しかしながら、筆者が2011年までに富士山北麓でおこなった予備調査では、カラマツ *Larix leptolepis* 林でノジコがよく確認された。また、富士山には湿っぽい湧水地はほとんどないことから、従来より知られているノジコの生息地とは異なっている可能性がある。本稿では富士山北麓におけるノジコの繁殖地の環境を報告する。

## 調査地と方法

調査地は山梨県側の富士山北麓とした。今回は富士山北麓におけるノジコの繁殖地の環境を明らかにすることが目的であるため、さまざまな植生、標高の場所で生息確認の調査をおこなった。すなわち、図1における1～28の地点を調査地として選定した。

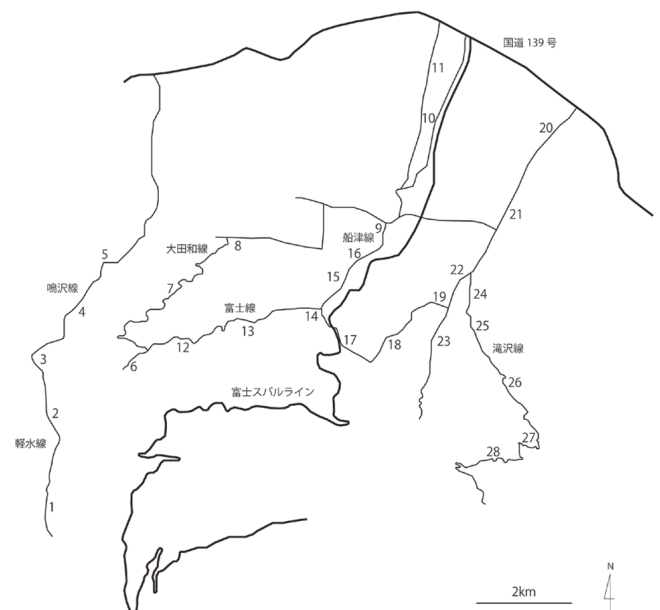


図1. 調査地と調査地点（1～28）

繁殖最盛期の鳥類の調査回数は、2回でも良いとされている (Biddy *et al.* 2000)。そのため、28地点で2012年5月下旬から6月中旬までに強風時をさけて晴天または曇天の日の早朝から概ね午前10時までのあいだに、日を変えてそれぞれの地点で2回調査を実施した。調査は1地点に10分間とどまり、ノジコの有無を記録した。1地点あたりの調査範囲は100m×100mとした。これらの場所はいずれも樹高15m以上の林で、標高は885～1535mであった。ノジコはソングエリアの中や近くに巣を作る (飯島 1970, 1991) ことから、繁殖期にさえずりが確認された場所を繁殖環境と判断した。調査には8×42倍の双眼鏡を使用した。なお、この調査は山梨県富士・東部林務環境事務所から県有林への入山許可、林道使用許可を得て実施した。

## 結 果

28地点で調査をおこなった結果、2、3、7、9、15、19、22、24、25、27の10地点でノジコの生息が確認された (表1)。生息の確認はすべてさえずりによるものであった。ノジコは調査地のほぼ全域に分布していた。この10地点の植生はカラマツが4箇所 (3、9、22、27) で最も多く、次いでカラマツにアカマツ *Pinus densiflora* と落葉広葉樹が少し混じるが2箇所 (19、24)、アカマツにカラマツが少し混じるが2箇所 (7、15)、アカマツとカラマツが1箇所 (25)、カラマツにシラビソ *Abies veitchii* が少し混じるが1箇所 (2)

表1. ノジコの生息が確認された地点と、その場所の植生および標高

地 点	1 回 目	2 回 目	植 生	標 高 (m)
1	×	×	カラマツにシラビソが少し混じる	1535
2	○	×	カラマツにシラビソが少し混じる	1470
3	○	×	カラマツ	1380
4	×	×	混交林	1360
5	×	×	アカマツ	1267
6	×	×	混交林	1530
7	×	○	アカマツにカラマツが少し混じる	1325
8	×	×	カラマツにアカマツが少し混じる	1190
9	○	×	カラマツ	1090
10	×	×	アカマツにカラマツが少し混じる	960
11	×	×	カラマツにアカマツが少し混じる	890
12	×	×	シラビソにカラマツが少し混じる	1450
13	×	×	シラビソにカラマツが少し混じる	1330
14	×	×	カラマツ	1270
15	○	○	アカマツにカラマツが少し混じる	1215
16	×	×	混交林	1160
17	×	×	混交林	1300
18	×	×	カラマツにアカマツと落葉広葉樹が少し混じる	1235
19	○	×	カラマツにアカマツと落葉広葉樹が少し混じる	1160
20	×	×	アカマツにカラマツが少し混じる	885
21	×	×	アカマツにカラマツが少し混じる	1000
22	○	×	カラマツ	1115
23	×	×	カラマツに落葉広葉樹が少し混じる	1220
24	○	×	カラマツにアカマツと落葉広葉樹が少し混じる	1120
25	○	○	アカマツとカラマツ	1190
26	×	×	カラマツ	1300
27	×	○	カラマツ	1400
28	×	×	カラマツ	1515

の順であった。標高は1090～1470mの範囲であった。1回目と2回目の調査の両方でノジコの生息が確認された地点は、15と25であった。

## 考 察

富士山北麓におけるノジコの繁殖地の植生は、10地点の内4箇所はカラマツで、次いでカラマツにアカマツと落葉広葉樹が少し混じる、アカマツにカラマツが少し混じるがそれぞれ2箇所などであった。つまり、カラマツおよびアカマツが繁殖地の要素として重要であることが示唆された。また、ノジコの生息が確認されたすべての地点にカラマツが生育していた。今回調査をおこなった地点のカラマツは、すべて植林されたものである。カラマツ人工林は樹種や森林構造が単純であるため、天然林にくらべて鳥類の多様性は低いことが指摘されている (小林・藤巻 1985) が、富士山北麓ではノジコの繁殖地になっていることが明らかになった。

繁殖地の標高は1090～1470mであった。生息の確認された地点と同様の植生でも、標高が異なると生息していない地点がみられた。このことから、ノジコは概ね標高1000～1500mの範囲に分布していると考えられた。

今回はノジコの個体数を記録していないため、生息密度については不明である。また、繁殖地の下層植生の状態や中低木の有無、地形なども記録していない。そのため、同様の植生や標高の場所でもノジコの生息している場所とそうでない場所の特徴については検討できない。今後はこれらの記録を集めるとともに、ノジコの繁殖成功率、カラマツおよびアカマツの立木密度、ギャップの有無やその範囲を調べることが求められる。

## 引用文献

- Biddy, C.J., Burgess, N.D., Hill, D.A. and Mustoe, S.H. (2000) *Bird Census Techniques* (Second Edition). Academic Press, London
- 飯島一良 (1970) ケイト山のノジコ *Emberiza sulphurata* 1970. *Emberiza* 3: 8-11
- 飯島一良 (1991) 雄が一足先に渡来<ノジコ>. 続・野鳥の生活 (羽田健三 監修). pp. 2-5. 築地書館, 東京
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 2004. 日本の鳥550 山野の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京
- 環境省 (2012) 【鳥類】環境省第4次レッドリスト (2012). ([http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=20551&hou\\_id=15619](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=20551&hou_id=15619))
- 小林桂助 (1959) 原色日本鳥類図鑑. 保育社, 大阪
- 小林茂雄・藤巻裕蔵 (1985) 落葉広葉樹とカラマツ人工林における繁殖期の鳥類群集. 鳥34: 57-63
- 峯岸典雄 (2007) 録音データの解析により明らかになった軽井沢の鳥類の減少. *Bird Research* 3: A1-A9
- 中村登流・中村雅彦 (1995) 原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>. 保育社, 大阪
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田

日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会 2011. 山梨県  
鳥類目録 やまなしの野鳥2011. 日本野鳥の会甲府支部・  
やまなし野鳥の会, 甲府  
山梨県森林環境部みどり自然課 (2005) 2005山梨県レッド  
データブック. 山梨県森林環境部みどり自然課.